

2016(平成28)年度 事業計画

2016/03/19

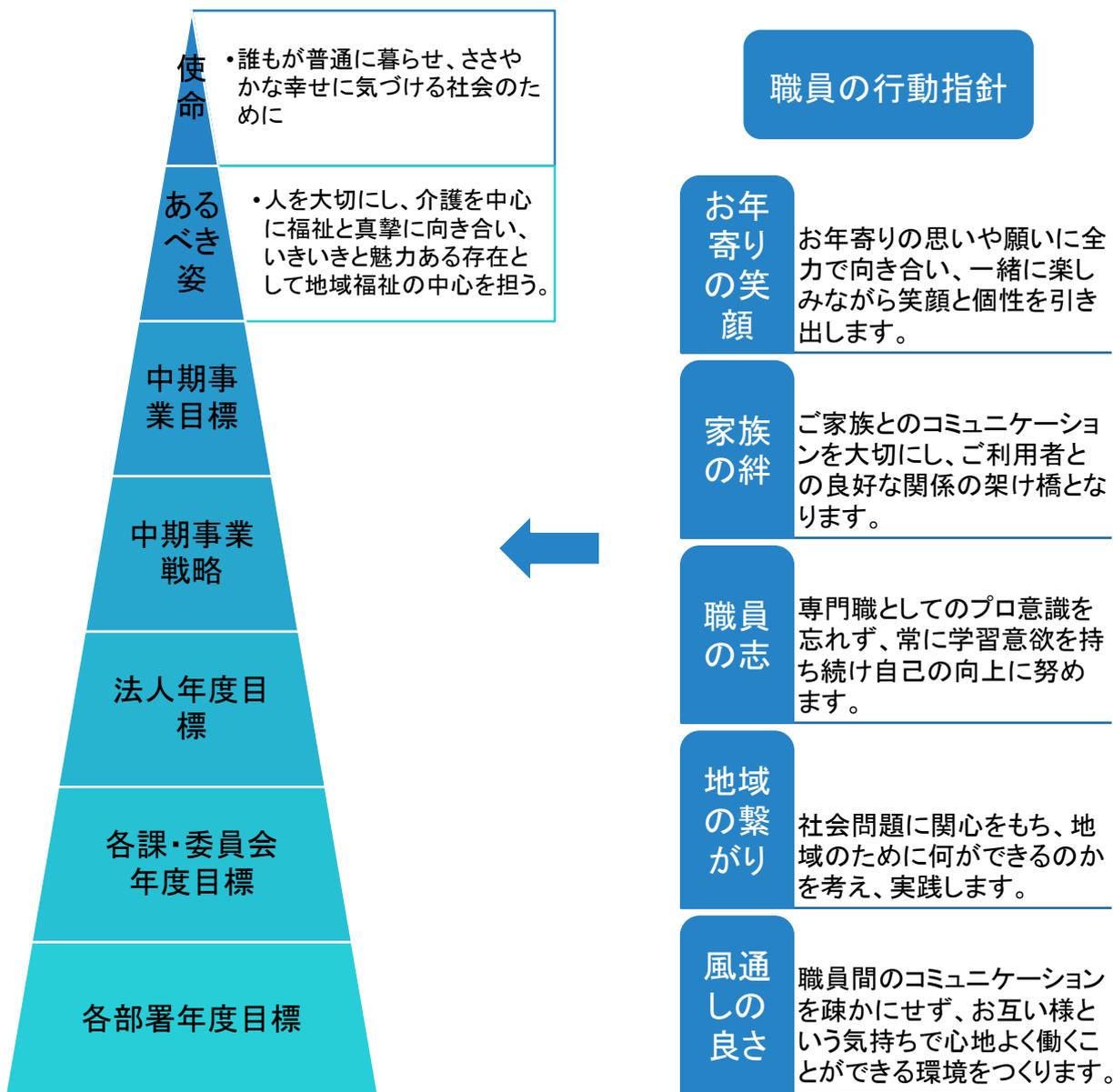
社会福祉法人 絢会

もくじ

- ◆ 基本理念 ～ 目標体系
- ◆ 中期事業目標・中期事業戦略
- ◆ 生活支援の姿勢・在宅支援の姿勢
- ◆ 職員への思い
- ◆ 職員の心がけ
- ◆ 法人年度目標
- ◆ 組織図
- ◆ 数値指標

◆ 基本理念 ～ 目標体系

基本理念 【普通に暮らす幸せ】



○使命/職員は何を大切に考えて仕事をするか

○あるべき姿/(2017(平成 29)年度末)にどのような組織であるべきか

○中期事業目標/あるべき姿を達成するための具現化すべき目標

○中期事業戦略/事業目標を達成するうえで重点としたいポイント

◆ 中期事業目標・中期事業戦略(2015年度～2017年度)

I.介護を中心に福祉と真摯に向き合う

- I-1 質の高い基礎介護力の維持・向上
 - ①介護の質の言語化と可視化
 - ②基礎介護力研修カリキュラムの確立
 - ③PDCAを用いた目標管理
- I-2 地域福祉への貢献
 - ①地域行事やボランティアへの積極的な参加
 - ②積極的な広報活動
 - ③法人資源を活用した柔軟なサービスの創造と公益活動

II.いきいきと魅力ある存在となる

- II-1 次世代を担う福祉人材の育成
 - ①研修制度の確立と充実
 - ②積極的な他事業所との交流
 - ③多様な働き方を可能とする職場環境
- II-2 風通しのよい職場環境
 - ①ICT化による情報の共有化・一元化
 - ②社内コミュニケーションの活性化
 - ③福利厚生の実施

III.財政基盤の安定化

- III-1 数値目標
 - ①当期資金収支差額 (毎年:8百万円以上)
 - ②年度末預金 (2017(平成29)年度末:8千万円以上)

◆ 生活支援の姿勢

お年寄りの方々に安心して生活していただけるよう努力します

- 馴染みの物、馴染みの関係を大切にします。
- お年寄りの身体の事を理解する努力をし、出来る事に目を向け心身ともにサポートします。
- 常にお年寄りの立場に立ち、探究心、向上心をもって継続してケアの質を高めます。

◆ 在宅支援の姿勢

在宅で暮らし続けるために、事業所の枠に収まらない複合的な支援をします

- 利用者様ひとりひとりと向き合い、潜在的な思いや能力を引き出し、チームとして同じ目標に向かいチャレンジしていき「気持ちを支えるケア」を実践します。
- 急な状況の変化にも迅速に対応ができ、生活状況に合わせて最善の方向へと一緒に考えることで、家族様の心の負担を少しでも軽く出来る「よりどころ」になります。
- 利用者様の心を前向きに動かし、「まだまだ出来る事」をサポートしながら心と体を元気にします。

◆ 職員への思い

職員も幸せになるべきです。人間的な成長は自身もご利用者も、そして周りの人も幸せにしていくと考えます。働きやすい職場で、やりがいをもって生き生きと働くことが自己実現につながり、人間的な成長を促すと信じ、人財育成に取り組みます。

自己実現を応援します

- 当法人で働くことがステップアップの場であって欲しいです。目の前のこと、些細なことでも疎かにせず、自分のあるべき姿を思い描き自己研鑽に励む職員を応援します。
- 迷い悩むことは当然のこと、一緒に悩み、考えられる仲間でありたいと思います。

働きやすい職場を創造します

- ワークライフバランスを大切にし、多様な働き方を受け入れられるような体制を整えます。
- 情報の滞りが人間関係に悪影響を及ぼしてしまうことがあります。情報の流れを整備し共有化を推進します。

やりがいをもって生き生きと働くことを支援します

- 成功体験を積み重ねていくことが自信を生みます。目標設定と振り返りをしっかり行い、成果を確認することが、やりがいにつながります。
- やらされる仕事はつまらない。自分たちで問題を発見し、考え解決していく仕事のほうが楽しいはずです。
- 手段と目的を混同させない。「何のために」という目的を伝えること、見失わないことが大切です。
- 自らの個性を生かしながらもチームに貢献する職員を応援します。

◆ 職員の心がけ

気持ちの良い挨拶をすること

- 『関係性が円滑になります』
- 挨拶は、人と人とのコミュニケーションのはじまりです。気持ちの良い挨拶は、自分も相手も心地よい気持ちになり、その場の雰囲気も良くする事ができます。

素直であり続けること

- 『飛躍的に成長します』
- 謙虚に耳を傾け、学ぶ姿勢で相手の人に接します。先輩方や後輩、周りの人から信用と信頼を得られ、たくさんのことを学びとることが出来ます。

努力を惜しまないこと

- 『人間性を育みます』
- 創意工夫を重ね、一生懸命に与えられた仕事に打ち込むことです。何か壁にぶつかっても諦めず、努力を続けることで自分の足りないところが見つかります。

利他の心で判断すること

- 『正しい判断を促します』
- 「自分だけがよければ」という利己の心ではなく、「人によかれ」という利他の心で考えます。他の人の気持ちを汲みとれるようになり、広い視野と深い思考で考えられるようになります。

感謝を常に忘れないこと

- 『人生を豊かにします』
- 人は必ず誰かと関わって生きています。今を当たり前と思わず、お蔭様という気持ちで感謝を示すことが、周りの人と自分の幸福感となります。

◆ 法人年度目標

1. 社会福祉法人制度改革への対応

大きく変化する社会福祉法人制度への準備と対応を行います。

① 経営組織のガバナンスの強化

議決機関として評議員会が必置となり、現行制度とは異なる法人組織体制となります。

② 事業運営の透明性の向上

社会福祉法人への理解を浸透させるため、財務諸表や現況報告書に留まらない情報公開を行います。

③ 財務規律の強化

適正かつ公正な支出管理の確保を行い、内部留保を明確化し、社会福祉事業への計画的な再投下を行います。

④ 地域における公益的取り組みを実施する責務

日常生活・社会生活上の支援が必要な人に無料または低額な料金により福祉サービスを提供します。

2. 地域社会への貢献

制度や市場で満たされない新しいニーズについて率先して対応していく取り組みを行います。地域との交流を図り、地域にあったニーズを知るためにも、法人職員が積極的に地域行事やボランティアへ参加をします。

3. 人材マネジメント

<採用>

介護業界は慢性的な人手不足が続いています。学校訪問の機会を増やすことに加え、広報活動を積極的に行い、新卒採用を中心とした採用活動を行います。実際の取り組みをたよりやホームページ、SNSにて積極的に発信し、介護の仕事のやりがいや楽しさを伝えます。

<育成>

理念体系を再構築していきます。介護の質の言語化と可視化をすすめながら、理念体系とキャリアパス基準に基づいた研修体系の確立を目指します。各ステージのプログラムを作成、実施します。

<福利厚生>

風通しのよい職場環境の整備に努めます。休憩場所の充実や社内イベント、部署を超えたプロジェクト等の社内コミュニケーションを活性化させる取り組みを実施します。

働きながら資格取得を目指す『資格取得補助手当』の活用を推奨していきます。自己実現を応援し、仕事に家庭にプライベート、充実した生活を送れるよう支援します。

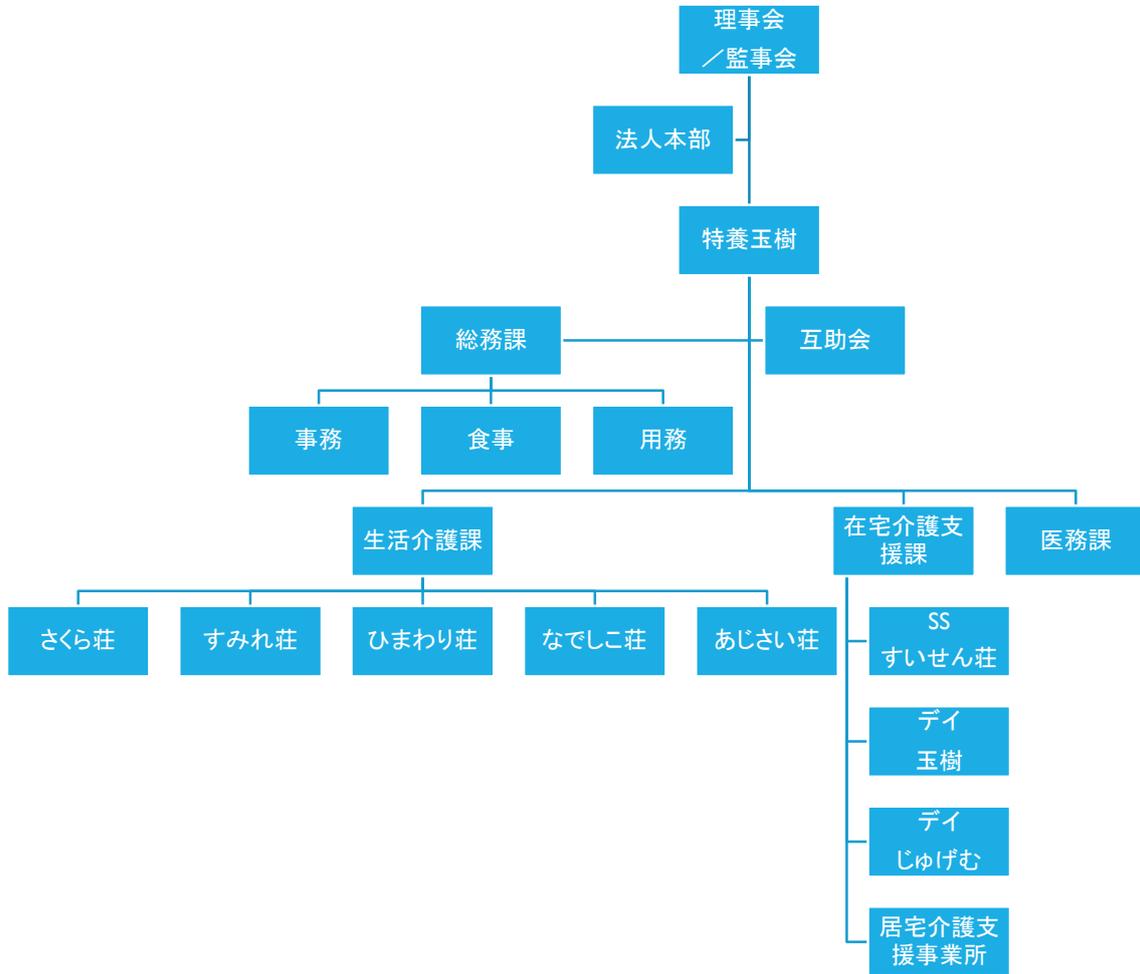
4. 介護の質とICT活用

感染症、気管支炎や発熱対策として、入居者を中心に心肺機能の強化をはじめとした基礎体力向上を目指します。遊びリテーションや散歩、外出といった入居者が体を動かす機会を積極的に作り出します。

リスクマネジメントシステムのアプリを開発、運用します。データベース化による分析によりリスクマネジメントの向上を目指します。

これらをひとつの基準として、数値化とデータベース化、分析をすすめ、介護度や入退居状況、体調不良や入院との因果関係を調査し、評価基準を探っていきます。

◆ 組織図



◆ 数値指標

	特養	ショート	デイ玉樹	デイ じゅげむ	居宅介護 支援事業 所
利用者定員	50	10	25	10	-
稼働日数	365	365	308	310	-
稼働率	99.00	99.00	87.00	86.00	-
一日平均利用者数	49.50	9.90	21.75	8.60	-
利用者延べ数	18,067.5	3,613.5	6,699	2,666	-
単価(1人1日当たり)	13,598	12,816	9,412	11,104	-
総収入(千円)	245,675	46,310	63,050	29,603	12,855